

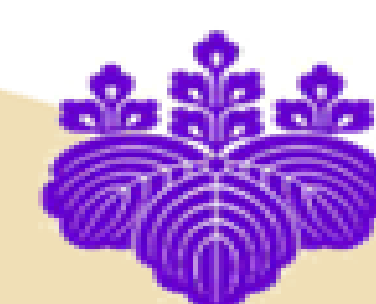
つくばSDGsマイスター講座

人文社会系

教授 土井 隆義

筑波大学人文社会系では、「つくばSDGsマイスター講座」を、
昨年から市民向けに提供し、各方面から好評を博しています。

筑波大学人文社会系



筑波大学
University of Tsukuba

地球を守りつつ幸せになろう。未来の子どもたちに残していこう。そのためにどうしたらいいだろう。何ができるだろう。それを考えるのが、国連サミットで採択された「持続可能社会の実現目標」です。身の回りのこと、食べ物のこと、使っている水のこと、捨てるごみのこと、子育て、介護、隣に引っ越してきた外国人のこと。どんな身近な経験であっても、そのすべてが地球の未来とつながっています。

つくばSDGsマイスター講座

筑波大学人文社会系では、つくばから地球の未来を見つめ、私たちが幸せになるための行動目標を学ぶための「つくばSDGsマイスター講座」を昨年から市民向けに提供し、各方面から好評を博しています。この講座は、半年ごとに前期と後期に分け、それぞれ5回シリーズで合計10講座を用意して実施しているもので、両方の講座を修了した受講生には、筑波大学から「つくばSDGsマイスター」の称号が授与される予定になっています。市民の一人として私たちに何ができるのか、みんなで考えていくための機会を社会に提供することで、筑波大学の社会貢献事業の一端を担っています。

●前期●

●後期●

第1回 SDGs、コミュニティとメディア

■ 講師 海後 宗男(メディア論)

多くの国家・企業・社会が丸となって持続可能な開発の17の目標と関連する169のターゲットに対するさまざまな努力をしています。これらに関する正確な情報の伝達は重要です。また、それには各種メディアが大きな役割を持ちます。この回では持続可能なコミュニティ形成に関連する様々な新しいメディア(ソーシャル・メディア/ソーシャル・ネットワーク・サービス)の活動の重要性とマス・メディアの機能について考えます。

第2回 幸せって何だろう?

■ 講師 土井 隆義(社会学)

SDGsの究極の目標は、幸せな生活を実現し、その環境を維持していくことです。その目標のトップは貧困の解消ですが、現在の日本では高齢層の貧困率が減少傾向にあるのに対して、若年層の貧困率は上昇しています。しかし各種の意識調査によれば、高齢層の幸福度が低いのにに対して、若年層のそれは高い傾向にあります。どうやら幸せな環境＝個人の幸福とは言えないようです。そこでまず幸せとはそもそも何なのかについて考えてみます。

第3回 途上国とつながる暮らし～身近な製品から知る

■ 講師 関根 久雄(開発人類学)

私たちが使う日用品の中には、原材料の確保や生産活動を海外で行っている物が数多くあります。SDGsの目標には「つくる責任、つかう責任」や「働きがいも、経済成長も」という項目がありますが、これらの目標は、日用品などの生産工程における雇用のあり方について、「知る責任」と問題の発生を「防ぐ責任」が私たちにも求められていることを意味しています。そこでこの回では、スマホを具体例に「責任ある消費」について考えます。

第4回 福島県のいま～試験操業から資源管理型漁業へ

■ 講師 五十嵐 泰正(社会学)

福島県産の海産物には消費者の根強い不安がある一方、漁獲規制されていたため豊かな漁業資源が回復してもいます。震災後の「風評」被害の実態やメカニズム、海産物の放射能濃度の推移と、それらを消費者に伝える取り組みを紹介し、漁業資源を持続的に利用する福島の漁業のありかたを展望します。ともに「常盤もの」と呼ばれる豊かな海の幸を共有してきた茨城県の消費者として、この課題にどう向き合っていくか考えてみましょう。

第5回 日本の「内なる国際化」を考える

■ 講師 明石 純一(政治学)

近年、国境を越える人の移動が活発化しており、各国の政治や経済、社会全般に複雑な影響を与えています。日本も例外ではなく、外国人(観光客、留学生、労働者など)の数は増加の一途です。急速な高齢化、そして人口減少を経験する日本社会に、どのような変化が生じているのでしょうか。豊かさや活力につなげるために、いかなる対応が求められているのでしょうか。この回では、「内なる国際化」が進む日本の現状と課題を考えます。

第1回 日本で育つ外国の子供たち～言語教育の視点から

■ 講師 一二三 朋子(言語学)

留学生、労働者等、様々な形で来日する外国人の増加で国際化の進む日本。そこでは、外国人の親に伴われて来日する子供たちも増加しています。この子供たちは母語と日本語、母文化と日本文化の狭間で「自分が何人であるのか?何者であるのか?」といったアイデンティティ形成に関わる様々な課題を抱えながら育ちます。この回では、言語教育の視点から、日本における外国人児童・生徒に対する教育現場の現状と課題を考えます。

第2回 多様な学びを保障する～教育と福祉の接点で

■ 講師 森 直人(社会学)

「子どもの貧困」や国境を越える人の移動が拡大するなか、正規の学校制度の網の目からこぼれ落ちる人びとの学習権保障が課題となっています。2015年の「多様な教育機会確保法案」は、日本でこうした教育ニーズの受け皿となってきたフリースクールや夜間中学を「公教育」に組み込む構想でした。この法案を題材に、「すべての人に包摂的かつ公正で質の高い教育を提供する」という課題の現在を、教育と福祉の接点の問題として考えます。

第3回 持続可能な経済成長と社会保障

■ 講師 福住 多一(経済学)

持続可能な社会には、一定水準の所得が必要です。さらに、より健康を望み、より余暇を楽しみ、子供達のより幸せな未来を描く、という私達のささやかな願いが尽きないものならば、持続可能な経済成長が必要不可欠です。それでは年金・医療費という社会保障負担は、持続可能な経済成長に、どう影響するのでしょうか?この回では、経済成長の基本的な仕組みと、社会保障負担がそれに与える長期的インパクトについて考えてみましょう。

第4回 「ジェンダー平等」のその先へ

■ 講師 土井 裕人(宗教学)

「ジェンダー平等の達成」はSDGsの目標5に掲げられていますが、そこで前提とされているのは、「男」と「女」という従来の枠組みです。「LGBT」といった言葉もよく耳にするようになった現在、ジェンダー平等は2030年に向けてどのようにあるべきでしょうか。これまで通りの「男」と「女」の二元論がそのまま通用するのでしょうか。こうした二元論を必ずしも採らない伝統的な宗教思想も取り上げつつ、未来の社会について考えてみましょう。

第5回 対話で開く・まだ見えない幸せのかたち

■ 講師 五十嵐 沙千子(哲学)

「哲学カフェ」を行います。それは講師から知識を与えられる「授業」ではなく、哲学者と共に、対話を通して一緒に考えを深めていくもの。テーマは「この講座を振り返って、あなたが今考えていること」。あなたが学んだこと、残っている疑問、心に刺さった問題。それを日常の言葉で話し合い、「幸せ」と「持続可能な共生」を、そして「まだ見えない幸せな未来のかたち」「あなた自身の幸せのかたち」を、全員で一緒に探していきます。

この講座は、筑波大学人文社会系社会連携推進室が企画し、藝文学苑と共に運営しています。